

神戸常盤大学
「令和 5（2023）年度『第Ⅰ期中期実行計画』
に基づく各組織の年間活動報告」に関する
外部評価報告書

1. 目的

本学では、「令和 5（2023）年度自己点検・評価報告書」として、「令和 5（2023）年度『第Ⅰ期中期実行計画』に基づく各組織の年間活動報告」（以下、「年間活動報告」とする。）を取りまとめました。この年間活動報告は、「第Ⅰ期中期実行計画」に基づき、担当組織（学科、委員会等）が設定した「年度の目標と活動計画」に対して、本学独自の自己点検・評価基準に従い「年間活動報告及び自己評価」を行ったものです。

この外部評価は、本学が行った「令和 5（2023）年度自己点検・評価書」に基づき外部有識者によるご評価いただくことにより、本学自己点検・評価結果との差異について考察を行い、外部評価の結果を踏まえ総括的な評価を行うことはもとより、大学教育事業の質の評価の客観性を高め、改善を図ることを目的としています。

2. 評価方法等

2.1. 実施方法

「令和 5（2023）年度『第Ⅰ期中期実行計画』に基づく各組織の年間活動報告」に基づく、書面による評価

2.2. 外部評価委員

委員 山端 恵実 氏（神戸市長田区長）

委員 真田 浩一 氏（公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 前会長）

委員 金谷 勝浩 氏（株式会社リクルート）

2.3. 学部・学科構成

神戸常盤大学

保健科学部 医療検査学科

診療放射線学科

口腔保健学科

看護学科

教育学部 こども教育学科

短期大学部 看護学科通信制課程[2025(令和7)年3月閉科予定]

3. 外部評価委員による評価結果

[1. 教育に関する計画]

(1) 教育の質保証の推進

【優れた点】

- ・「学修支援体制の確立」について、概ね計画どおりに実施されている。
- ・日頃から教育の質の向上を推進することにより、国家試験（M, R, N, O 科）の合格率が、いずれも全国平均を上回っている。
- ・売り手市場の中で、各科の専門性を十分に発揮し、担任やゼミ担当者等の積極的な関わりや支援により、高い就職率を誇ることができている。
- ・診療放射線学科では、福島スタディツアーなど、地域貢献や医療安全の活動を継続して支援し、実践教育も推進している。
- ・口腔保健学科では、短期大学部の閉学科を見据えて、きめ細かな学習支援を実施し、円滑な閉学科と体制移行が図れている。
- ・教育力をより向上させるため、学内での研修が計画通り実施されている。ハラスメント防止など、教職員や学生に身近で喫緊の課題をはじめとして、学科内 F D や各委員会と連携し効果的に取り組んでいる。

【改善すべき点】

- ・学科によっては、担任の学習支援への負担が大きいため、引き続き、チュータや指導教員との役割分担・情報共有の仕組みづくりに取り組む必要がある。
- ・通信課程の看護学科では、個々の学習の進捗に合わせたきめ細やかな指導が行われているが、さらに、スクーリングや実習の確実な履修が確保できるよう改善が求められる。
- ・ICT を活用した学習方法の充実にに関して、災害時にも対応できるよう、授業のオンデマンド化だけでなく、先進的な他大学の情報も参考にしつつ、オンライン型授業も検討していく必要がある。

(2) 多様で柔軟な教育体制の構築

【優れた点】

- ・地域交流センターは、大学と地域をつなぐ総合窓口の機能を発揮し、交流拠点であるコミュニティハウスの開設、K I T による子育て支援、地域課題のフィールドワークの実施など、学生が地域に根ざした多様な社

会活動を行い、専門力に加えて本学ならではの市民性を備えた人材育成と区内の交流・賑わい、子育て支援など、まちづくりと地域貢献に大きく寄与している。

- ・区社協と連携設置した独自のボランティアセンターの取り組みでは、区内イベント・地域活動への積極的なボランティア参加や小豆島合宿の開催により、豊かな人間性や市民性の成長が図れている。
- ・キャリア教育に関しては、キャリアコンサルタントと学科別担任が連携して対応を行い、看護学科をはじめとして、卒業生を積極的に活用し、交流会・座談会の開催などにより、キャリア意識の向上に取り組んでいる。

【改善すべき点】

- ・現行の基盤教育のシステムは、構築から一定年数を経過しており、様々な状況変化をふまえ、見直しを実施していく必要がある。
- ・リカレント教育について、教員・組織の体制の充実を図るとともに、コロナ禍以前に実施していた内容を振り返り、社会人学生や卒業生との連絡を密にするなど、今後の取り組みを期待する。
- ・本学の特色を活かした学部学科横断的な教育プログラムについても引き続き検討し、多職種連携教育の推進にも取り組まれない。

〔2. 入学者選抜に関する計画〕

【優れた点】

- ・IR推進室と連携しデータ活用により、次年度以降の入学者選抜の方法や入試科目等へ反映させることができた点
- ・脱コロナ路線に向け、HPの部分的リニューアルや、学生広報組織の立ち上げにより多角的な広報施策の検討が始められた点
- ・オープンキャンパスにおいて、受験生にとって最も身近な存在である在校生の協力体制を得られることができている点
- ・過年に捉われず、こども教育学科、口腔保健学科において新たに3月にオープンキャンパスを開催する等、受験生の動向に合わせた募集活動ができている点

【改善すべき点】

- ・既存データだけに捉われず、受験生動向や競合校を意識した入学者選抜方法の検討実施
- ・HPの情報更新のスピード、導線の不明瞭さ（どこに、何の情報が設置さ

れているか)の改善

- ・オープンキャンパス開催時期ならびに学内誘導導線の強化。競合校においては他の医療系学科の分野においても早期実施が進んでいること、各学科連携、全体イベントの開催等により来校者が、よりおもてなしを実感できる機会の創出。

[8. 学部・学科の特色化に向けての計画]

【優れた点】

- ・すべての学部・学科において「ときわコンピテンシー」である知性、感性、専門性、市民性を意識した目標と活動計画の実践に向けて意欲的に取り組んでいる点は評価に値する。

【改善すべき点】

- ・学生および就職先に向けてのアンケート結果のうち、ディプロマポリシーに対する評価について本人の評価と就職先の評価に若干の乖離が認められる。スペシャリストとしての育成に加えてジェネラリストとしての育成を意識した計画が学部・学科の特色化の強化に繋がるキーポイントになるのではないかと考える。